

平成28年度第3回北海道病院事業推進委員会 議事概要

1 日時及び場所

平成28年11月18日(金) 14:00~15:30

北海道立道民活動センター(かでの2・7) 10階1050会議室

2 出席者

(委員) 佐古委員長、池田委員、谷口委員、土橋委員

(道側) 山中室長、三瓶室次長、佐藤参事、竹澤参事、小俣経営改革推進指導官、
道立病院室各主幹、主任技師、主査 ほか

3 議事概要

(1) 開会

(2) 議題

- ① 平成28年度上半期 新・北海道病院事業改革プラン点検・評価書について
事務局から自己点検・評価について説明があった後、委員長から委員会点検・評価について説明があり、委員による質疑応答、意見交換が行われた。
- ② 新たな病院事業改革プランについて
事務局から標記について説明があった。
- ③ 経営形態の見直しについて
事務局から標記について説明があった。

1 委員の主な発言

(平成28年度上半期 新・北海道病院事業改革プラン点検・評価書について)

- ・ 他医療機関でも入院については、コンパクトな医療を目指すようになっているため、在院日数が極めて短縮している。化学療法や日帰り手術等といった外来にシフトして単価を上げている傾向があるので、道立病院でも切り口として分析してはどうか。
- ・ 薬品については、利鞘率が高いものは院内処方へ回帰する動きがある。また、利鞘率8%未満の薬品については病院の持ち出しが発生するため、ジェネリックの使用率だけでなく、差益もしっかり見据えた方が良い。
- ・ 看護師確保が厳しいところは、他の職種が代替できる業務は採用しやすい職種に替えていくことを検討してはどうか。
- ・ 緑ヶ丘はスーパー救急が好調であるが、依然として一般病床が低調な傾向が続いていて、そのあたりが課題。
- ・ 向陽ヶ丘は新病院になってからも今のところ期待ほど目に見えて数値として上がってきていない。
- ・ 精神科の場合は新規患者は大概どこの病院も減ってはいないが、精神医療がかなり進化したこともあって短期間で改善して退院もできるようになってきている。
- ・ 江差の精神科の稼働率は50%ぐらい。閉鎖病棟は入る患者は限られるため稼働率が上がらない。
- ・ たくさんの認知症の患者さんを預かる場合は閉鎖的な環境も必要。一般病棟ではなかなか難しい。

(新たな病院事業改革プランについて)

- ・ 新たなプランを評価する委員会には各病院の院長も出席することを検討していただきたい。病院長が委員と直接話をした方がより伝わると思う。